

#### その-4 アジサイの剪定について

アジサイの栽培方法について、その-1では鉢を使った栽培で考えたこと、その-2では鉢の軽量化をどうするか。その-3ではアジサイを増やす方法としてそのコツを簡単に話してきました。今回は剪定について出来るだけ簡単に書いてみたいと思います。毎年、大船の県立フラワーセンターにおいて開催する鎌倉アジサイ同好会主催の「日本の自生アジサイ展」で来場される方々からの質問で多いのは次のような内容のようです。

1. 花が咲かないのですが…
2. 肥料はどうするのか
3. 鉢植えで土はどのようなものを使っているのか
4. 鉢植えで置き場はどこがよいか
5. 剪定はするのか、実際はどうすれば…
6. その他、咲いたけれども品種名が分からずから教えてほしい…等々です。

大体このような質問に集約されます。この中で毎年のようにあることですが咲いた花の写真を見せられて品種名を答えるのは正直大変です。第一育てられた土や肥料、場所などが分かりませんし、アジサイは土の酸性度(pH値)によって色そのものが変わる品種が多く「…と思いますけど…」が精一杯です。

ですから、ここで再度示しておきますが、鉢でも地植えの場合でも品種名は大切です。ラベルと鉛筆は必需品です。アジサイに限らず植物を栽培する場合は名前と植えた日にちをしっかりと記入することが大切です。こうすることによって、植え替えの時期や品種の確認に迷うことは無くなります。

前置きが長くなりましたが、今回はアジサイの剪定について考えてみます。ほとんどの植物では花の咲いた後に出来るだけ早く制定することが基本となるでしょう。切り戻しとも言いますが地植えにして早く大きく育てたい場合は別としても、鉢で管理する場合は咲いたままにいつまでもそのままに放置しておくとボーボー状態に上へ上へ枝が伸びたり、または株の根元から新しい幹が何本も出てズッシリとした状態になっているのをよく見かけたりします。

実は、上の質問の最初に書きました「花が咲かないのですが」という質問の答えはこの剪定ということが重要な作業になります。大切なこと、順を追って考えてみましょう。

##### 1. 花後は直ちに剪定をしましょう。

ヤマアジサイとガクアジサイでは開花の時期が違います。ヤマアジサイは湘南地域では5月上旬から下旬がピークです。ガクアジサイの場合は5月下旬から6月下旬まで開花しますがいずれも品種によって、または栽培される地域によって、桜前線ではないですがアジサイ前線のようなヤマアジサイの場合は高度によって開花時期は大きく変わってきます。鎌倉アジサイ同好会では国内に自生するヤマアジサイを中心に栽培する方がほとんどで、その所持している品種数も何十から何百種に及ぶ方もいらっしゃいます。ですから、どの品種がいつ頃開花したのかをしっかりと記録している方もいて、こうすれば花後すぐに剪定するという作業に計画がたてられますね。

しかし、いちいち開花した日にちを記録しておくことは面倒だという方、いつ開花したか分からなかつた方に対しては開花したアジサイがもうその年の終わりを迎えたことが分かる簡単な見方をお教えしましょう。この合図が観いたらハサミを持って剪定作業を開始してみて下さい。

### 花後とは?…花期が終わった合図はこれです。

・鉢の下周辺にゴミがパラパラと落ちている。実はこれ、ゴミではありません。アジサイの花びらが落ちたものです。余談ですが、ヤマアジサイもガクアジサイもツボミから最初に開く白や青の色に付いた花びらのような部分は実は額の部分が変化してもので正確にはこれは花ではなく、装飾花と呼んでいます。同じような植物は他に新潟県や富山県に多く自生するユキワリソウの花の咲き方もその代表的なものです。(下の写真参考) ただし一般的にはこの部分を花色と呼んでいますのでここでは固いことは言いません。花としましよう。

さて、倍率10倍くらいのルーペでアジサイを観察したことがありますか。ツボミが開いて両性花に色が付いて、さらにしばらくしてからは花の中心部分をルーペで観ると雄しべに囲まれた雌しべが観られます。確かにこれはアジサイの花そのもので、初めて観た時は感激です。



参考: ガクが変化したものを花と呼んでいるユキワリソウ



アジサイの両性花 拡大写真

下の写真のように開花した鉢の周りに雄しべや雌しべ、花びらなど両性花がパラパラと落下し始めたら花のピークは終わったと判断しましょう。また、さらにもう一つ、ガク咲きアジサイの場合には花の周りの装飾花が反対に”ひっくり返った”らこれも花の終わりを告げています。(下 右側の写真 装飾花が下向きに反転している )



パラパラと落ちた両性花



開花期が終わって反転した装飾花

花期が終わった合図としてはこのパラパラと両性花が落ちてきた時、また装飾花が反転した時、さらにこまめに記録を付けている方は開花した時からの日数で剪定時期が分かってきます。いずれにしても、鉢植え栽培の場合は特に花がらを早く取り除いてやることが来年の花付きに大きく影響すること、これは間違いないでしょう。

## 2. 花がらはどの部分を切るか

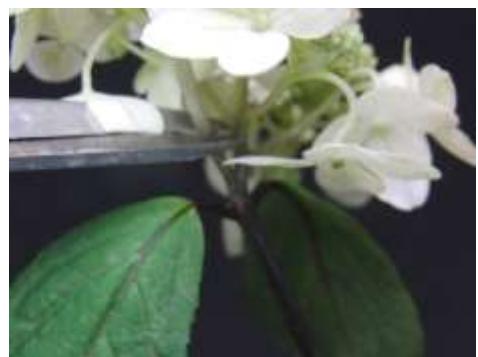
咲き終わった花がらを取り除く場合に、どの部分を切るかという質問はよく聞かれます。ここで注意しなくてはならないのは花の咲いている直ぐ下の部分を切る方が多いことです。解り易く次の

ページに写真を載せましたが、花の下にある小さな葉の上で切ることは花がらを切ったことにはなりません。花の直ぐ下にある小さな葉は苞といつてもともとは花のツボミを保護する為のものといわれてアジサイの場合は葉と似ています。苞の上部には来年度の新芽(新しい枝)は生えてきません。ですから、この葉の更に下の部分を切ることです。

さて切る部分ですが、来年度の花の付き方、枝ぶり、全体の大きさ、花を何輪程度咲かすか等々…最も神経をつかうところでもありますし、また想像力を膨らませ自分のイメージ、センス??を楽しめる時もあるのです。



花びらの直ぐ下のこの部分では切らないこと



ここで切っても新芽が伸びてこない



幹に新芽の膨らみが見える



新芽の見える約1センチ上で切る  
あまり新芽ギリギリで切らないこと

### 3. 具体的なアジサイの剪定

#### ・自由に切り戻すこと

花がらを切る位置は以上の通りです。切る時期は花後直ぐにですがまだ木が1年～2年程度の若い木の場合は来年度の開花に向け出来るだけ早い時期に枝を剪定し形を整えることを考えましょう。鉢植えの場合は5号鉢を標準に考えると大体2～4本の幹が適当です。私は5号鉢の場合は3本の幹数を標準として剪定します。

仮に3本の幹の場合、ここから剪定後は2芽づつ新芽が出て順調にいけば、来年はその先にそれぞれ花が付きますので合計6輪咲くことになります。鎌倉アジサイ同好会では5号鉢では3～5輪の花が付けば展示用、観賞用として充分としています。私見ですがヤマアジサイの場合は密生した枝という枝全てに花をつけることはかえって風情が損なわれるようで鉢栽培の場合の花数はこの程度を目標に剪定してみて下さい。

因みに私は未だ木が若い場合はちょっと残念な気もしますが、両性花が完全に開ききる前に花を切って枝の剪定も行っています。

剪定では株のこの位置を切るといった約束事のようなものはありません。この辺が松や臘月の盆栽剪定と異なる点かも知れませんが経験的に見た目がスマートに自然に綺麗に観えればそれで良いのです。繰り返しますが、想像力を膨らませ来年の自分のイメージ、センス??を楽しめる時もあるのです。

余談ですがアジサイの場合、特にヤマアジサイは詫び、錆びを感じさせる植物だと思っていますから派手な花付きと大きさは求めない方が楽しめますね。特にヤマアジサイは他の盆栽植物と異なり針金を枝に掛けて半ば強制的に形を作れない植物です。ヤマアジサイの思うように?形を任せれば良いのです。

#### ・思い切って切り戻すこと

毎年開かれている大船フラワーセンターのアジサイ展示会ではアジサイの管理について講習会も併せて行っています。その時にヤマアジサイの剪定について説明していますが、花後の剪定はとにかく思い切って行うことと実演を兼ねて説明しています。

思い切って…これが意外と出来ないことで、咲いている花を切り落とし、さらにせっかく伸びた枝や幹をバシバシ!!と切り落とす様を観て皆さん啞然としますが…大丈夫、切りすぎて失敗したことはありません。「切りすぎた!!」と思う程度が丁度良いのです。逆に切らなくて失敗したことは何回もあります。

私はいつも株は3本の幹立ちを基本として株元に出たひこばえ(その年に出た小さい幹)は気づいた時に全て取り去るようにしています。さらに、株の根元付近の葉や小さな枝も全て取り去ります。ですから、鉢の中はすっきりとして風通しの良い状態が保たれ、葉の少なくなった分だけ葉からの蒸散も抑えられるために水やりが楽に、真夏に水枯れでぐったりすることも少なくなりました。これも余談ですが剪定後は鉢の中の葉の枚数が数えられる程度にまで枝を落とすことが来年の花付に大きく影響すると思っています。

一応、私が実践している剪定を具体的に示すと幾つかこだわりがありますが、これに縛られることは無いと思いますよ。(私は鉢植えの場合は)咲かそうとする位置の約10センチ下の幹を切るようになっています。また、葉は一つの幹に4枚も付いていれば充分と思っています)



剪定前の鉢



古くなった枝は切る



交差した枝を切る



シート状に伸びた強い枝を切る



3本に分かれた枝を切り、多くても2本に



下側に伸びだした枝を切る



この程度まで剪定



株元に密生して生え出した株  
⇒これも3本程度に切り取る



株元をすっきりと整理した鉢  
水やりもぐっと楽になります。



新しい枝が伸びた。

ここまで剪定しても、6月から秋口にかけて株元や枝の下部には新しい枝や葉が伸びてきます。水やり時に気が付いた時には手でむしり取るようにしています。

要は、鉢植えの場合には無駄な枝や葉を徹底的に取り去って水分、栄養分は出来る限り枝先の来年の花芽に向けるようにして管理することが大切と思っています。

やがて剪定した節からそれぞれ3節(6枚の葉)が上に向かって伸びて合計12枚の葉が展開しますが、秋には頂点に花芽が付き、そのまま越冬して来年に開花します。

しばらくすると頂点部分に2本の新しい枝(矢印)

さらに追加として

・挿し芽をした一年目の苗も剪定の必要があります。



昨年挿し芽をして、この春に新葉が展開しました。



このまま上に伸ばすのではなく、ここから2本に分けて育て、鉢植えに向いた形にするため頂点を摘み取る。



頂点を摘み取った状態。秋までには形を整え来年は鉢植えに向いた形が期待できそうです。

今回は少し長々と説明しましたが、鉢植えでアジサイを毎年咲かせて楽しみたいと思われる方はくどいようですが念のために要点をまとめておきます。

1. 花後に直ぐ花がら摘み取り、剪定すること
2. 剪定は思い切って切り戻すこと。
3. 同時に株元はすっきりと綺麗に…以後、春まで
4. 挿し芽をした1年苗も頂点を摘み取りましょう。

この時期以外に剪定作業は殆どしないようにしましょう。